

小・中学生のIgA腎症の発見契機が学校検尿だった割合【平成30年度】

	A: H30年度に 初回腎生検を行 なった人数	B: AのうちIgA腎症と 診断した人数	C: Bのうち発見契機 が学校検尿で あった人数	D: Bのうちステロイド を含む治療を選 択した人数	E: Dのうち発見契機 が学校検尿で あった人数
合計	162	44	30	31	24
		B/A=27%	C/B=68%	D/B=70%	E/D=77%
福岡県	44	12	9	9	7
佐賀県	13	2	1	2	1
長崎県	9	3	3	1	1
熊本県	25	8	5	5	5
大分県	29	6	3	3	2
宮崎県	15	4	3	4	3
鹿児島県	19	6	5	4	4
沖縄県	8	3	1	3	1

注：日本小児腎臓病学会の地域関連学会である九州小児ネフロロジー研究会による九州各県で腎生検を行っている施設へのアンケートの結果を提供していただいた。
 学校検尿で初めて異常を指摘された年度と腎生検を行った年度は必ずしも同一ではない。
 県の区分は施設の住所であって患者住所とは必ずしも同一ではない。
 腎生検の適応や治療にステロイドを含めるかどうかの判断は施設によって異なる場合がある。

参考【平成28-29年度の合計】

	A: H28-H29年度に 初回腎生検を行 なった人数	B: AのうちIgA腎症と 診断した人数	C: Bのうち発見契機 が学校検尿で あった人数	D: Bのうちステロイド を含む治療を選 択した人数	E: Dのうち発見契機 が学校検尿で あった人数
合計	463	115	78	72	56
		B/A=25%	C/B=68%	D/B=63%	E/D=78%
福岡県	171	41	29	18	14
佐賀県	30	8	6	6	5
長崎県	29	7	6	6	5
熊本県	63	14	9	13	8
大分県	59	15	8	10	7
宮崎県	35	6	5	4	4
鹿児島県	29	6	2	3	1
沖縄県	47	18	13	12	12